

(様式①)

## 事業計画書目次

[財政局]

### 2款6項2目 ファシリティマネジメント推進費

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和6年度		令和5年度		増△減(6-5)		新規・拡充
		総額	一財+市債	総額	一財+市債	総額	一財+市債	
11	ファシリティマネジメント推進事業	169,325	92,540	171,143	99,363	△ 1,818	△ 6,823	
12	財産損害保険料	3,258	3,158	2,686	2,231	572	927	
13	資産活用推進基金積立金	7,567	-	7,567	-	0	-	
14	公共事業調整推進費	107,330	73,759	103,128	72,052	4,202	1,707	
	計	287,480	169,457	284,524	173,646	2,956	△ 4,189	

# 令和6年度 事業計画書

事業局課	財政局	ファシリティマネジメント推進課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
歳出予算科目	一般会計	2 款 6 項	2 目	政策番号	99	施策番号 99
事業名称	ファシリティマネジメント推進事業					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	169,325	0	0	76,785	0	92,540
令和5年度	171,143	0	0	71,780	0	99,363
増▲減	▲1,818	0	0	5,005	0	▲6,823

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	0	0	169,325	169,325	169,325
	市債+一般財源	0	0	92,540	92,540	92,540
決算	事業費	0	0			
	市債+一般財源	0	0			

事業概要 (アクティビティ)	本市が保有する土地・建物等の資産を経営資源として総合的に捉え、「資産の戦略的利活用による価値の最大化」と「公共施設が提供する機能・サービスの持続的な維持・向上」の2つの視点から、保有のあり方・維持管理・利活用を最適化を図る「ファシリティマネジメント」の取組を進めます。 これら、資産の戦略的利活用に向けた取組や公共施設適正化の取組を全庁的に進めるため、資産所管局ごとの未利用等土地の適正化計画や主要施設ごとの個別施設計画を策定、推進します。							
-------------------	---	--	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
計画の策定	単位	目標	策定検討	策定検討	策定検討	策定(未利用等土地)	策定(個別施設計画)	-	-
		実績	策定検討	策定検討					
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
計画の推進	単位	目標	-	-	-	-	推進	推進	推進
		実績	-	-					

事業目的	「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」において、資産経営に関する基本方針及び将来アクションを掲げ、将来目標の達成など資産・公共施設の適正化に中長期的に取り組むため、主要な方針・計画の改定・策定を行いました。 これらに基づき、本市が保有する土地・建物等について、「資産の戦略的利活用による価値の最大化」及び「公共施設が提供する機能・サービスの持続的な維持・向上」の両面から適正化を目指すファシリティマネジメントを全庁的に推進し、将来世代に横浜の豊かな未来をつないでいけるよう、持続可能な市政運営を実現していく必要があります。
------	---

背景・課題	本市では約1万haの土地を保有しており、そのうち用途廃止施設がある土地や、事業の変更・中止や社会経済状況の変化等で未利用・暫定利用となっている「未利用等土地」が約100haあります。政策資源が細く中で持続可能な市政運営を進めるためには、これらの未利用等土地を有効活用し、土地利用の適正化(2030年度までに30haを適正化、2040年度までに60haを適正化※)を進めることが必要です。 また、公共施設については、老朽化による保全更新に係るコストの増加や、築70年を超える施設の建替費等の増加が見込まれる中、施設の規模や数量、質、保全更新コスト等を将来の人口や財政の規模に見合った水準に適正化(2040年度：基準時点以下に縮減、2065年度：基準時点から少なくとも1割を縮減)していくことが必要です。 ※基準時点：2021年度末
-------	--

根拠法令・方針決裁等	地方自治法、地方財政法、産業財産権関連法(特許法・実用新案法・意匠法・商標法等)、自動車損害賠償保障法、横浜市附属機関設置条例、横浜市財産評価審議会条例、横浜市開発事業の調整等に関する条例、横浜市公有財産規則、横浜市職員の職務発明に関する規則
------------	---

根拠・データ等	横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン、横浜市資産活用基本方針、横浜市公共施設等総合管理計画
---------	---

事業スケジュール	年間を通じて事業を実施
事業開始年度	

(単位：千円)

細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
細事業(事業内訳)	1 公有財産管理費	15,226	0	15,226	事業再編による皆増
	2 財産評価審議会	3,990	3,990	0	
	3 廃道廃水路等売却事業費	2,901	0	2,901	事業再編による皆増

細事業(事業内訳)	4	ファシリティマネジメント推進事務費	14,432	0	14,432	事業再編による皆増	
	5	資産経営企画費	2,000	0	2,000	事業再編による皆増	
	6	保有資産公募売却等事業予定者選定委員会	600	428	172	委員会開催予定回数増による増	
	7	公共施設マネジメント推進事業費	19,220	0	19,220	事業再編による皆増	
	8	公共事業評価委員会	720	644	76	WEB配信実施費用の増による増	
	9	再編整備・利活用調整事業費	14,110	0	14,110	事業再編による皆増	
	10	市有地公募売却等事業	75,813	0	75,813	事業再編による皆増	
	11	保有土地等活用検討費	20,313	0	20,313	事業再編による皆増	
	12	公有財産管理	0	85,404	▲85,404	事業再編による皆減	
	13	市有地公募売却事業	0	32,191	▲32,191	事業再編による皆減	
	14	廃道廃水路等売却事業	0	2,300	▲2,300	事業再編による皆減	
	15	保有土地等活用検討	0	29,300	▲29,300	事業再編による皆減	
	16	公共建築物マネジメントの推進	0	12,445	▲12,445	事業再編による皆減	
	17	公共建築物マネジメント台帳システムの運用	0	4,441	▲4,441	事業再編による皆減	
	細事業合計			169,325	171,143	▲1,818	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	藪田 正博	野上 康之	竹内 志織

# 令和6年度 事業計画書

事業局課	財政局	ファシリティマネジメント推進課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	2					
歳出予算科目	一般会計	2	款	6	項	2	目	政策番号	99	施策番号	99
事業名称	財産損害保険料										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	3,258	0	0	100	0	3,158
令和5年度	2,686	0	0	455	0	2,231
増▲減	572	0	0	▲355	0	927

歳出		令和3年度	令和4年度
予算	事業費	2,324	3,278
	市債+一般財源	1,876	2,793
決算	事業費	3,288	3,569
	市債+一般財源	3,150	3,454

令和7年度	令和8年度	令和9年度
3,258	3,258	3,258
3,158	3,158	3,158

事業概要 (アクティビティ)	自動車損害賠償保障法第5条に基づき各区局が保有する公用車の自動車損害賠償責任保険（以下「自賠責保険」という。）について財政局が一括して保険代理店と契約を締結します。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
付保台数	単位	目標	200	281	186	248	248	248
	台	実績	178	196				
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位	目標						
	実績							
事業目的	自動車損害賠償責任保険は、自動車損害賠償保障法で加入が義務付けられている強制保険です。財政局において、企業会計を除くすべての公用車の保険加入を取りまとめ、全庁的な業務の効率化を図っています。							
背景・課題								
根拠法令・方針決裁等	自動車損害賠償保障法 横浜市予算、決算及び金銭会計規則 横浜市予算、決算及び金銭会計規則の解釈と運用について							
根拠・データ等	自賠責保険付保件数 <各局> 2年度1,373件、3年度1,381件、4年度1,230件 <各区> 2年度 214件、3年度 178件、4年度 196件							
事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和47年度 事業開始</li> <li>平成22年度 局の保険料について各局予算に変更</li> <li>令和2年度～令和7年度 リース車両の保険料については貸貸人の負担とする事業見直しにより、各区に予算統合</li> </ul>							
事業開始年度	昭和47年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	自動車損害賠償責任保険料	3,258	2,686	572	必要台数の増
細事業合計		3,258	2,686	572		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 藪田 正博	係長 野上 康之	竹内 志織
------------------------------------	-------------	-------------	-------

# 令和6年度 事業計画書

事業局課	財政局	ファシリティマネジメント推進課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	3
歳出予算科目	一般会計	2 款 6 項	2 目	政策番号	99	施策番号 99
事業名称	資産活用推進基金積立金					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	7,567	0	0	7,567	0	0
令和5年度	7,567	0	0	7,567	0	0
増▲減	0	0	0	0	0	0

歳出		令和3年度	令和4年度
予算	事業費	7,567	7,567
	市債+一般財源	0	0
決算	事業費	7,566	7,566
	市債+一般財源	0	0

令和7年度	令和8年度	令和9年度
7,567	7,567	7,567
0	0	0

事業概要 (アクティビティ)	施設の解体・改修、整備等にかかる財源確保が困難な状況のなか、資産活用推進基金を活用して本市保有土地や建物の有効活用施策を財政面から支援するとともに、解体・改修後の売却や貸付により生じた収益を基金に戻すことで基金を適正かつ効率的に運用します。							
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
積立金	単位	目標	7,567	7,567	7,567	7,567	7,567	7,567	7,567
	千円	実績	7,566	7,566					
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
貸付収入	単位	目標	7,567	7,567	7,567	7,567	7,567	7,566	7,566
	千円	実績	7,566	7,566					

事業目的	令和6年度は、旧若葉台西中学校（旭区）を活用するための改修工事費等として、隣接する旧若葉台西小学校の建物売払収入及び土地貸付収入の一部を充当することとし、本格的な活用開始まで基金に積み立てます。 (平成20年10月開催 都市経営執行会議において決定)
背景・課題	

根拠法令・方針決裁等	資産活用推進基金条例 横浜市資産活用基本方針
------------	------------------------

根拠・データ等	旧若葉台西小学校収入実績 平成22年度 66,000千円 (建物売払収入)、平成23年度 7,783千円 (土地貸付収入) 平成24年度 7,783千円 (土地貸付収入)、平成25年度 7,783千円 (土地貸付収入) 平成26年度 7,485千円 (土地貸付収入)、平成27年度 7,566千円 (土地貸付収入) 平成28年度 7,566千円 (土地貸付収入)、平成29年度 7,566千円 (土地貸付収入) 平成30年度 7,566千円 (土地貸付収入)、令和元年度 7,566千円 (土地貸付収入) 令和2年度 7,566千円 (土地貸付収入)、令和3年度 7,566千円 (土地貸付収入) 令和4年度 7,566千円 (土地貸付収入)
---------	--

事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度：建物売払収入の積立</li> <li>平成23年度～：土地貸付収入の積立</li> </ul>
事業開始年度	平成22年度

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	資産活用推進基金積立金		7,567	7,567	0
	細事業合計		7,567	7,567	0	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 藪田 正博	係長 野上 康之	竹内 志織
------------------------------------	-------------	-------------	-------

# 令和6年度 事業計画書

事業局課	財政局	公共事業調整課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	2					
歳出予算科目	一般会計	2	款	6	項	2	目	政策番号	38	施策番号	3
事業名称	公共事業調整推進費										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	107,330	0	0	33,571	0	73,759
令和5年度	103,128	0	0	31,076	0	72,052
増▲減	4,202	0	0	2,495	0	1,707

歳出		令和3年度	令和4年度
予算	事業費	83,034	80,644
	市債+一般財源	56,865	56,412
決算	事業費	82,215	0
	市債+一般財源	56,313	0

令和7年度	令和8年度	令和9年度
107,330	107,330	107,330
73,759	73,759	73,759

事業概要 (アクティビティ)	「柔軟かつ持続可能な財政運営」の一翼を担い、技術的な視点をもって、技監の総合調整機能をより発揮し各区局調整を実施します。								
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
建設業DX活用研修 受講人数(庁内)	単位	目標	40	80	120	100	80	60	60
	人	実績	28	102					
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
建設業DX活用延べ 工事件数	単位	目標	20	20	80	140	200	260	320
	件	実績	40	63					
事業目的	建設業の働き方改革の実現および受発注者双方の連携による生産性向上の実現を目的として、週休2日工事による発注や、債務負担行為の活用及び平準化率を指標とした工期の執行管理等による発注・施工時期の平準化、総合評価落札方式の推進、試行要領に基づいたICT活用工事の適切な運用、ASPの活用による工事関係書類の簡素化などの取組を推進します。また公共工事発注における積算業務の適正な執行を目的として、土木積算システムの管理運用をします。								
背景・課題	建設業等は、今後、少子高齢化による担い手不足が懸念されており、将来にわたり公共工事等の品質を確保するためには、労働環境の整備のための週休2日の確保や施工時期の平準化など働き方改革の推進が必要です。また、生産性向上のためのICT活用による調査・設計・施工・管理の効率化や、ASPの活用による工事関係書類の簡素化などの取組の推進が必要です。また、公共工事発注においては、円滑な発注手続き及び正確かつ適正な積算作業が必要です。								
根拠法令・方針決裁等	・公共工事の品質確保の促進に関する法律・横浜市優良工事表彰要綱・公共事業のIT化推進計画、横浜市情報化の基本方針・横浜市技術職員資格取得助成金交付要綱・横浜市将来にわたる責任ある財政運営の推進に関する条例・請負工事等総合評価落札方式審査確認委員会設置要綱								
根拠・データ等	・週休2日制確保適用工事の発注率(週休2日対象工事・公告件数/週休2日対象件数) 令和4年度 0.89 ・本市工事発注における総合評価落札方式の適用率 令和4年度 4.4%								
事業スケジュール	・ASP活用研修(6・7月)・ICTの活用研修(1月)・優良工事表彰(11月) ※その他、通年及び随時実施								
事業開始年度	平成23年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
		1	土木積算システム	■	■
2	総合評価落札方式の推進	680	280	400	実績精査による増
3	優良工事表彰の開催	584	606	▲22	実績精査による減
4	公共事業のIT化	1,387	1,392	▲5	電子納品サーバーの仮想化に伴う減

細事業(事業内訳)	5	技術的課題に対する調査・研究 (DX推進)	502	1,500	▲998	実績精査による減
	6	監督業務資格取得支援	250	384	▲134	実績精査による減
	7	公共事業調整推進に係るその他事務費	1,171	1,631	▲460	実績精査による減
	8	ソフトウェア	■ ■	■ ■	■ ■	事業再編による皆減
	細事業合計		107,330	103,128	4,202	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	井深 美江	寺島 博明	内藤 萌苗